

年頭ご挨拶

2019年1月吉日
一般社団法人 海外環境協力センター
理事長 竹本和彦

新年あけましておめでとうございます。
2019年の年頭にあたり、ご挨拶を申し上げます。

1. はじめに：2019年を展望する

2019年の国際環境開発分野における重要課題を見渡してみると、本年は例年にも増して大変大きな節目を迎える年であるといえます。

まず6月中旬には**G-20 エネルギー・環境大臣会議**が長野県において開催され、その成果は6月末に大阪において開催される**G-20 サミット**に報告されます。また7月にはNYにおいて、SDGs 達成に向けた世界の取り組みをレビューする「**ハイレベル政治フォーラム**」(HLPF)が、また9月には国連総会の冒頭、各国元首の参加の下に再度 HLPF が開催されることになっており、持続可能な開発に向けた議論が国内外において一層活発になってくることが想定されます。

また気候変動問題に関しては、5月に**IPCC 総会**が京都において、11月の後半**COP25**がチリにおいて開催され、「パリ協定」の2020年からの本格実施に向けた国際社会の行動に一層拍車がかかることとなります。

さらにアジア・太平洋地域に目を向けると、**環境インフラの海外展開**の先行事例の取組が一層加速されるなど環境開発分野における国際協力の可能性が拡がりつつあるといえます。

OECC は、こうした国際的動向をも視野に入れ、我々の本領を発揮すべく果敢に行動を起こし、様々な局面において国際社会における持続可能な社会構築に貢献をしていく方針です。

2. OECC としての取組方針

ここで OECC の使命と立ち位置について述べてみたいと思います。

OECC の使命については、私の着任以来折に触れ「**世界の持続可能な社会構築に向けて貢献していく**」と述べてきたところであり、今後ともこの使命をしっかりと果たすべく努めていきたいと考えています。

次に **OECC の立ち位置**ですが、これも「**海外環境開発協力の中核的拠点**」として活動していく団体としての立ち位置(Positioning)をかねてより明らかにしてきたところです。OECC は、コンサルタント会社や地方公共団体及びその関連団体が相当数¹加盟する公共性の高い団体であり、「**海外環境開発協力の中核的拠点**」として最も相応しい団体であると再認識しています。

OECC としては、これら**使命と立ち位置**を常に踏まえながら、これまで取り組んできた**広角的取組を一層充実**させていきたいと考えています。また会報をはじめとする OECC 独自のメディアを活用した**アウトリーチを戦略的に展開**していく考えです。さらに、例年の OECC 総会に併せて開催する「**橋本道夫記念シンポジウム**」については、2019 年は OECC 研修部会との共催により、G-20 サミットに向けた議論への貢献ができるよう企画していきたいと考えています。そして**2020 年の「OECC 設立 30 周年**」という記念すべき年に向かって着実な前進が図れるよう努めていきたいと願っています。

3. まとめ

私は OECC の理事長として、これまで 2 年半を過ごしてまいりました。その間様々な試みに挑戦してきましたが、こうした変革の試みはこれからも続けていきたいと考えています。そしてやがては、**世界に OECC の名を轟かすような組織に発展**していきたいと願っています。

今後とも皆様のご理解とご協力を改めてお願いし、私の年頭の挨拶と致します。(了)

¹ 会員数は、現在 47 団体、今年度末には 49 団体となる見込み。